

# 平成17年度 事業報告書

財団法人日本ハンドボール協会

## 1. 普及指導に関する事業

### 1) 普及関係

#### (1) 少年チーム活性化推進ブロック会議

8月14日	近畿ブロック	長浜	8月27日	四国ブロック	高知
10月1日	北海道ブロック	札幌	11月26日	北信越ブロック	氷見
12月3日	東海ブロック	名古屋	12月10日	関東ブロック	守谷
12月23日	九州ブロック	福岡	1月22日	中国ブロック	総社
2月25日	東北ブロック	東根			

- ・ブロックの少年チームの現状について、各県小学生大会参加チーム延べ数 1749 チーム（前年 1580 チーム）
- ・少年チーム活性化の方策について

#### (2) 小学生専門委員会

第1回小学生委員会 6月4日(土)日本協会事務局

- ・第18回全国小学生大会について（U-12 指導法講習会開催の件）
- ・J級指導者講習会について
- ・少年チーム活性化推進について

第2回小学生専門委員会 7月28日(木)京田辺市

- ・全国ブロック会議について(日程の確認)
- ・講習会について（全国大会会場において開催）
- ・第18回全国小学生ハンドボール大会実施 男子26チーム 女子24チーム

第3回小学生専門委員会 3月27日(月) 氷見

- ・小学生大会。交流会ガイドライン検討

ガイドブック編集会議

- ・12月17日(土) 名古屋
- ・2月25日(土) 東根

#### (3) 中学生専門委員会

第1回中学生委員会 8月20日(土) 豊橋

- ・各ブロック報告（チームの減少傾向）
- ・U-15大会の説明、開催協力依頼
- ・春の全国中学生大会について

第2回中学生専門委員会 12月24日(土)堺市家原大池体育館

- ・各地の現状報告（春の中学生大会への参加状況について）
- ・JOC大会の将来展望

NTSとの連携：出場選手選考、有望選手の発掘

- ・春の全国中学生大会開催について

(4)小学生指導要領対策

- 文部科学省訪問 4月21日(木)文部科学省スポーツ・青少年局
- 第1回学校体育検討専門委員会 5月29日(日)日本協会事務局
- ・第8回研究集会実施案検討
- ・委託校選定について 第 期(平成17年度・18年度)8校
- 小委員会(打ち合わせ) 8月3日(火) 山鹿市
- 第8回研究集会 8月4日(木)、5日(金)山鹿市
- ・授業発表
- ・実技研修と講義

(5)ビーチハンドボール専門委員会

- 第7回全日本ビーチハンドボール大会 8月27日(土)28日(日)
- 千葉県 男子11チーム、女子6チーム
- 審判講習会、指導者研修会
- 第7回ワールドゲームズ・ビーチハンドボール 7月21日(木)~23日(土)
- ドイツ・デュイスブルグ
- ビーチ委員会開催
- 4月、8月、11月、1月

(6)マスターズ専門委員会

- 第13回全国ハンドボールマスターズ大会 7月29日(金)~31日(日)大阪市
- 男子32チーム、女子17チーム

(7)女性委員会

- 全国女性指導者ピックアップ(約1200名)
- 女性指導者対象 アンケート実施 1月~3月
- 世界女性スポーツ会議開催の告知(各都道府県女性委員会窓口担当者宛)

2)指導関係

(1)指導委員会

- 第1回中央指導委員会 6月18日(土)
- ・本年度事業確認
- ・J級指導員養成について 新規・更新の検討
- ・義務研修について
- ・専門教科の免除について
- ・資格の義務づけについて
- ・U-19までの指導指針について
- 第2回中央指導委員会 7月27日(水)
- ・報告事項
- 技術委員会関連事項

平成 17 年度コーチ養成講習会専門教科講習会について  
平成 17 年度第 1 回コーチレフェリーシンポジウムについて  
全国小学校大会 U-12 指導講習会について

・検討事項

義務研修について

コーチ講習会専門教科免除について

平成 17 年度競技別講師全国研修会について

第 3 回中央委員会 18 年 1 月 29 日(日)

・平成 17 年度競技別講師全国研修会について

・平成 18 年度 U-12 指導指針について

・U-19 までの一貫指導指針について

全国指導委員会 18 年 1 月 29 日(日)岸記念体育館内

・今年度事業報告

・来年度活動計画

・今年度資格事業報告

・大学における専門教科免除について

平成 17 年度コーチ養成講習(専門教科)6 月 21 日~6 月 26 日

愛知県ブラザー工業 参加 26 名

平成 17 年度コーチレフェリーシンポジウム

第 1 回広島 7 月 23 日 24 日

第 2 回東京駒沢大学 18 年 3 月 17 日 18 日 80 名参加

平成 17 年度競技別講師全国研修会(コーチレフェリーシンポジウム)

スポーツ指導員養成講習会、 北海道、埼玉、東京、香川、宮崎

J 級指導員養成講習会、 茨城、東京、富山、愛知、兵庫

### 3) 競技者育成技術委員会

(1)第 1 回競技者育成技術委員会 東京都体育館 6 月 19 日

NTS センター・ブロックトレーニングと指導者研修会の展開について

・各種セミナー、研修会開催について、系統的、横断的展開

DVD 作成について(教本作成も含む)

強化本部組織強化について

・エリートスタッフ養成部会の設置

・強化指定選手のリーグ参加について

その他

・大学における単位取得者の公認資格取得、講習会受講免除について

(2)第 2 回競技者育成技術委員会 広島 7 月 23 日

NTS センター・ブロックトレーニングの展開について

・センタートレーニング:二泊三日で学習の徹底を図る

- ・ 中学生大会 : 中学生のモチベーションを高める機会と捕らえる
- ・ 県の段階にどう落とすか、教育の場にどのように落とすか、学校体育検討委員会ともタイアップし方法を探る

エリートスタッフ養成部会について

2007年問題(ナショナルコーチングスタッフ等に対する資格取得の義務づけ)

各委員会提案・報告

- ・ IHF コーチシンポジウム 藤元委員より報告、
- ・ 指導委員会より コーチ養成講座の報告、競技別講師養成講座の開催
- ・ 大学の履修科目による公認指導者認定講習受講免除規定について

(3)第3回競技者育成技術委員会 岡山 10月23日

NTS センター・ブロックトレーニングの展開について

a.県レベルでの実態調査

- ・ 県NTS、それに類似した研修会実施の事態調査・・・水上NTS委員長
- ・ 各選手の記録、協会登録時に記入欄の新設・・・兼子事務局長

b.エリート部会について

- ・ 次代を担う若手の育成(国際的な場面への派遣)をねらいとする。

指導委員会より

- ・ 日本リーグチームの監督、指導者の公認指導員資格取得(2007年問題)についてオーナー会議で理解を求める。
- ・ 大学専門講義受講での公認指導者資格認定制度について、上級指導者の上位のマスター資格の推薦について、一貫指導指針作成について等々、

普及委員会より

- ・ 小学生大会運営基準について、角本部長より報告

強化委員会より

- ・ 新しいタレント発掘事業として「福岡トライアウト」事業の例示、

(4)第4回競技者育成技術委員会 中部大学 10月23日

協議事項

- a.各世界選手権大会への随行者について：選手団役員については7名以内と規定
- b.一貫指導指針作成について：指導、強化、NTSからのワーキングスタッフで、
- c.コーチレフェリーシンポジウムの開催について

報告事項

- a.センタートレーニングについて：17年度の報告  
審判部、指導委員会として有効な参加を考える。引率者の公認研修として考える
- b.公認指導員資格取得(2007年問題)について：何とかクリヤーできそう。

その他

- ・ 外国籍選手の登録、コート上は1名を推進
- ・ ナショナルチームマニュアル(五輪の書)の作成

## 2. 競技運営に関する事業

### 1) 主催大会の管理・運営 (斜体は国際大会)

月	大会名	開催日程	開催地	結 果
4月	第2回東アジア選手権(男女)	4/7-11	中国・蘇州	男子:1; KOROSA 2;大崎電気 3;北京 4;江蘇 女子:1; 広島メイプル 2;曉明 3;北部(中国) 4; 安徽(中国)
5月	西日本学生選手権大会	5/28-6/1	福岡市民体育館 他	男子:1;大体大 2;中部大 3;関西大、大経大 女子:1;武庫川 2;福教大 3;福岡大、大教大
6月	第1回アジアユース選手権(男女)	6/26-7/2	タイ・バンコク	男子:1;韓国 2;イラン 3;日本 女子:1;韓国 2;日本 3;タイ
7月	第25回全国クラブ選手権・西地区	7/08-10	兵庫県朝来市 養父市	男子:1;下松ク 2;ホソナフエロース 3;パルティス 女子:1; 風見鶏ク 2;徳山ク 3;大阪教員
	第25回全国クラブ選手権・東地区	7/16-18	福島県本宮町総合体育館他	男子:1; 紫嵐会 2;神楽坂会 3;青商ク、土浦三高 女子:1 筑波学園ク 2;札幌ク 3;REDS、福島ク
	第7回ワールドゲームズ・ビーチハンドボール	7/19-25	ドイツ・デュイスブルグ	1;ブラジル 2;ハンガリー 3;トルコ 8;日本
	第10回アジア国際大会	7/21-24	広島市東区スポーツセンター	1;日本 2;韓国 3;エストニア 4;タイニズ・タイハイ
	高松宮記念杯第46回全日本実業団選手権大会	7/27-31	富山市総合体育館	男子:1;大同特殊鋼 2;大崎電気 3;湧永製薬 女子:1;広島メイプル 2;私大 3;ユニセシヨクク九州
	第13回全日本マスターズ大会	7/29-31	大阪市立舞洲体育館	男子:1;NISSIN 鉄球会 2;;オールドフェイス 3;;神楽坂会 女子:1; 射水ク 2;TOKUYAMA61 3;;スリッパズ
	第18回全国小学生大会	7/29-31	京田辺市中央体育館他	男子:1;中央小 2;宮城小 3;下郡 HB 少、薪 HBク 女子:1;松井ヶ丘小 2;玉名小 3;小金井ク、宮城小
8月	高松宮記念杯第56回全日本高校選手権大会	8/1-7	千葉県佐原市 市川市他	男子:1;興南 2;小林工 3;不来方、市川 女子:1;洛北 2;陽明 3;白梅学園、昭和学院
	第15回女子ジュニア世界選手権	8/1-14	チェコ(ズリオン、ブルノ)	1;ロシア 2;ノルウェー 3;韓国 10;日本
	第32回全国高等専門学校選手権大会	8/6,7	川崎市とどろきアリーナ	1;豊田高専 2;大阪府立高専 3;一関高専、東京高専
	東日本男子学生選手権大会	8/8-11	函館市民体育館他	男子:A;函館大 B;順天堂 C;東北福祉大 D;明治大 女子:a;東北福祉大 b;早稲田
	第10回男子ジュニアオープンナット	8/13-16	神戸市立中央体育館他	1;HC 岡山 2;大同ク 3;那覇西ク
	第10回女子ジュニアオープンナット	8/14-16	三田市立駒ヶ根運動公園体育館他	1;HC 岡山 2;シャトレセーブル・ルカ 3;MIE violet' IRIS
	第34回全国中学校大会	8/21-24	豊橋市総合体育館	男子:1; けやき台中 2;稲田西中 3;平針中、汐路中 女子:1;東久留米西中 2;上中 3;本渡中、香東中

	第13回日韓中ｼﾞｭニア交流競技大会	8/23-29	北海道・きたえる	男子：1;韓国 2;日本 3;中国 4;北海道 女子：1;韓国 2;日本 3;中国 4;北海道
	第9回日韓ｽﾎﾟｰﾂ交流(派遣/男子)	8/29-9/2	韓国	
	第7回全日本ﾋﾞｰｽﾞﾊﾞｰﾄﾞﾎﾞｰﾙ選手権大会	8/27,28	千葉県富浦町原岡海岸	男子:1;BeachBoys 2;Team ごじゃっぺ 女子:1;あぶらおおめ 2;愛媛ミカン
9月	第30回日本ﾘｰｸﾞ	9/3-3/	各地	
	第9回日韓ｽﾎﾟｰﾂ交流	9/7-18		女子/受入
10月	第9回日韓ｽﾎﾟｰﾂ交流	10/5-10		女子/派遣
	第60回国民体育大会	10/22-27	岡山県津山工業高校体育館他	成年男子:1;埼玉県 2;広島県 3;愛知県 4;三重県 成年女子:1;鹿児島県 2;石川県 3;岡山県 4;広島県 少年男子:1;沖縄県 2;福井県 3;香川県 4;岡山県 少年女子:1;東京都 2;大阪府 3;京都府 4;愛知県
11月	高松宮記念杯男子第48回女子第41回全日本学生選手権大会	11/5-9	川崎市とどろきアリーナ他	男子:1;筑波大 2;日本体育大 3;日本大、早稲田大 女子:1;武庫川女子大 2;大阪教育大、3;福岡教育大、筑波大
12月	第17回女子世界選手権大会	12/5-18	ロシア・サンクトペテルブルグ	女子 1;ロシア 2;ルーマニア 3;ハンガリー (日本は18位)
	第57回全日本総合選手権大会	12/21-25	福井県営体育館他	男子:1;大崎電気 2;大同特殊鋼 3;トヨタ車体、湧永製薬 女子:1; 松山 2; 広島メイプルズ 3;北國銀行、ソニー
	第14回JOCｼﾞｭニアﾘﾝｸﾞｯｶｯﾌﾟ	12/24-27	大阪府堺市家原大池体育館他	男子:1;茨城県 2;愛知県 3;山口県、兵庫県 女子:1;沖縄県 2;奈良県 3;福井県、大分県
	全日本実業団チャレンジ2006	2/10-12	高砂市総合体育館他	1;八光自動車工業 2;トヨタ自動車 3; 高知クラブ
2月	第12回男子アジア選手権	2/12-21	タイ・バンコク	1;クウェート 2;韓国 3;カタル 4;イラン (日本は5位)
3月	第30回日本ﾘｰｸﾞﾌﾟﾚｰｯﾄﾞ	3/18-19	東京都駒沢体育館	男子:1; 大同 2; 大崎 3; 湧永 4; トヨタ紡織 女子:1; 松山 2; 広島メイプルズ 3; ソニーセミコンダクタ九州
	第29回全国高等選抜大会	3/22-27	常総運動公園総合体育館	男子:1;藤代紫水 2;法政二 3;興南、愛知 女子:1;高岡向陵 2;洛北 3;夙川学園、四天王寺
	第1回春の全国中学生選手権大会	3/26-29	氷見市ふれあいｽﾎﾟｰﾂｼﾞｬﾝｸﾞﾙ他	男子：1;東久留米西 2;神森 3;湯沢南、けやき台 女子：1;下津井 2;鶴城 3;岩国、東陽

## 2) その他の事業

- ・ 平成17年度チーム・選手・チーム役員登録業務
- ・ 平成18年度登録料及びシステムの検討
- ・ 競技運営連絡協議会の開催(東京)
- ・ 国民体育大会運営の簡素化・効率化への取り組み

- ・ 国民体育大会正規視察（山口県）
- ・ 競技用具（ボール・ゴール・ゴールネット）検定の実施
- ・ 大会開催マニュアル平成 17・18 年度版の発行準備
- ・ 全国競技運営委員会立ち上げ準備
- ・ 第 1 回全国春の中学生大会実施

### 3. 国際に関する事業

#### 1) 日本ナショナルチーム国際大会関連

\* 下記行事への選手・役員等の派遣に関わる登録、合宿手続き、査証準備などの連絡

日程	大会等の名称	大会場所
4 月	第 2 回東アジアクラブ選手権(男女)	中国（蘇州）
5 月	ギョンナム・アナズヴィルカップ国際女子大会	韓国（京畿道）
6 月	韓国実連オープン大会審判派遣（仲田稔・小笠原久郎）	韓国（ソウル）
	スイスハンドボールキャンプ（銘苅 松永 前里）	スイス
	第 1 回アジアユース選手権(WC 予選)男子(U19)女子(U18)	タイ（バンコク）
7 月	第 7 回ワールドゲームズ・ビーチハンドボール	ドイツ（ツィンガルト）
	第 10 回ヒロシマ国際大会（男子大会）	広島県広島市
8 月	第 15 回世界女子ジュニア選手権	チェコ(ブルノ)
	女子ナショナル・デンマーク合宿	デンマーク（スゲンボ）
	第 13 回日韓中ジュニア交流大会（高校生）	北海道札幌市
	第 9 回日韓スポーツ交流（派遣/男子 U16）	韓国（ドンナン）
9 月	アジアクラブリーグ（浜田浩和・小笠原久郎）	ヨルダン（アンマン）
	第 9 回日韓スポーツ交流（受入/女子 U16）	石川県小松市
10 月	第 9 回日韓スポーツ交流（派遣/女子 U16）	韓国（ソウル）
11 月	女子ナショナル・デンマーク事前合宿	デンマーク（スゲンボ）
12 月	西アジア大会（西山逸成 玉村健次 富本栄次）	カタール（ドーハ）
	第 17 回世界女子選手権	ロシア(サクトペルブルク)
2 月	第 12 回アジア男子選手権（WC2007 予選）	タイ（バンコク）

#### 2) 国際会議に関する事業

\* 下記会議への役員等の派遣に関わる連絡、渡航などの支援

##### (1) IHF 関係

6 月	IHF 医事委員会会議（西山逸成）	スイス（バーゼル）
	コーチレフェリーシンポジウム（藤本元）	タイ（バンコク）
8 月	第 1 回世界男子ユース U-19 選手権（渡邊会長・西山逸成）	カタール（ドーハ）
	IHF 理事会（渡邊会長）	ハンガリー（ブダペスト）
12 月	第 17 回世界女子選手権（渡邊会長）	ロシア(サクトペルブルク)

(2)AHF 関係

4月 AHF 理事会(4/5 クウェート)に関する連絡 渡邊会長  
審判登録・派遣・レフェリーコースに関する連絡  
その他 AHF 会議議題・議事録の翻訳

(3)EAHF 関係

4月 EAHF 理事会に関する連絡 山下・市原両副会長

3)その他の事業

(1)国際移籍等に関する連絡(移動証明書の発行など)

チェコ移籍案件の補助

ベルト・パウワー 新外国人コーチ契約書・租税条約

(2)翻訳業務

大会要綱の翻訳

海外大会情報の翻訳及び掲示

4. 競技規則(審判)に関する事業

1)平成17年度登録公認審判員数 2,694名(前年度+248名)

終身118名、国際12名、A級280名、B級510名、C級660名、D級1,114名

2)公認審判員上級審査結果

A級審査は、西日本学生選手権大会(福岡)をモデルに、B級は北海道地区(函館市)・北地区(宮城)・東地区(群馬)・中地区(兵庫)・西地区(熊本)の5地区にて実施。結果は下記の通り。

	A 級	B 級
審査申請者	19名	57名
書類不備者	0名	7名
欠席者	4名	6名
筆記不合格者	6名	6名
実技不合格者	0名	2名
体力不合格者	2名	
合格者数	8名	38名

B級筆記不合格者と実技不合格者は重複している

レフェリーコース受験状況

前期 期日 8月15日(月)~17日(水)  
 モデル 長浜ドリーム大会 高校チーム男女45チーム  
 場所 滋賀県 長浜市  
 担当者 川島克之、越田義昭、三枝慶彦

後期 期日 3月24日(金)~26日(日)  
 モデル 関東学生男子1部チーム強化試合  
 場所 日本体育大学健志台体育館(横浜市青葉区)

担当者 川島克之、越田義昭、小友正人

結果は下記の通り。

申請者数	9名
欠席者数	0名
B級認定者	7名
C級認定者	2名

実業団レフェリーコース受験状況

期 日 2月10日(金)兵庫市にて実施

モデル 実業団チャレンジカップ

結果は下記の通り。

申請者数	1名
欠席者数	0名
B級認定者	1名
C級認定者	0名

### 3) 講習会・研修会及び審判員評価

講習会

対象者 日本リーグ担当レフェリー・一般希望者

内 容 日本リーグ審判員の目標の説明

体力テスト(クーパー走)

・北海道地区日本リーグ講習会	未開催	
・北信越地区	2月26日	金沢市
・東北地区	3月5日	花巻市
・近畿地区	3月11日	京田辺市
・東海地区	3月14日	名古屋市
・四国地区	3月28-30日	松山市
H18開催・関東地区	4月2日	伊奈町
・九州地区	6月24-25日	山鹿市予定

トップレフェリー・コーチ研修会

期 日 7月23日(土)・24日(日)

会 場 広島市 東区スポーツセンター

対 象 平成17年度全国大会担当レフェリー・日本リーグ担当レフェリー・コーチ

参加者 審判審査指導専門委員を含め115名参加

モデル ヒロシマ国際大会

内 容 座学 ・講演 サッカー国際審判 山西 博文 氏

・ルール研究委員による新ルールの解説

実技 国際大会レフェリーチェック

・グループ別ディスカッション

ゲームの流れとアドバンテージ

攻撃側の反則

段階罰

7mスロー

## パッシブプレー

協力制・位置取り・ジェスチャー

### 審判員評価

- ・全国高等学校総合選手権大会参加審判員評価（千葉県）審判審査指導専門委員 3名派遣
- ・全日本総合選手権大会審判員評価（福井県）審判審査指導専門委員 6名派遣
- ・国民体育大会と選抜大会のマッチバイザーに審判審査指導専門委員を配置できたので審判員の評価対象を増やすことができた。

## 4) 会 議

### ・審判審査指導専門委員会

期 日 9月17日(土)、18日(日)

場 所 東京都千代田区内神田 セントラルホテル

内 容 A・B級受験状況及び審査結果の検討  
レフェリーコース前期の受験状況報告  
総合選手権大会審判員のノミネート  
若手審判員の教育内容検討

期 日 12月22日(木)～24日(土)

場 所 福井県・福井市体育館

内 容 ・都道府県審判長会議の内容検討

審判指導法

審判指導 DVD 作成

新ルールのポイント

審判の新走法

ヤングレフェリープロジェクト(YRP)の要項検討

期 日 平成17年1月27日(金)

場 所 国立スポーツ科学センター

平成18年度A・B級受験申請書類審査

YRPの要項作成

審判部合同会議準備

### ・審判部合同会議

期 日 1月28日(土)・29日(日)

場 所 国立スポーツ科学センター

参加者 審判部長・競技運営部長・審判審査指導専門委員・各ブロック審判部長・各連盟審判部長・競技規則研究専門委員長・審判国際専門委員長・日本リーグ審判部長・審判総務専門委員長及び審判総務専門委員

内 容 ・平成17年度諸活動の総括

・平成18年度活動の検討

・競技規則改正点の解説

- ・ 審判部運営上の問題検討
- ・ I H F の身体接触に関する映像解説

## 5) 審判員の登録と海外派遣実績

- |                                       |               |           |
|---------------------------------------|---------------|-----------|
| ・ I H F 登録審判員                         | ・ A H F 登録審判員 | ・ YRP 登録  |
| 浜田浩和・小笠原久郎                            | 藤井俊朗・大熨嘉彦     | 永春文義・安田 寛 |
| 仲田 稔・植村 彰                             | 永春文義・安田 寛     | 池淵智一・檜崎 潔 |
| 家永昌樹・福島亮一                             |               |           |
| ( 武智誠治・松原誠起 )                         |               |           |
| ・ 第 2 回東アジアハンドボールクラブ選手権               |               |           |
| 期 日                                   | 4月7日～11日      |           |
| 場 所                                   | 中国(蘇州)        |           |
| 派遣審判                                  | 福田 弘・富田 拓     |           |
| ・ 国際オープン大会(ギョナムアナズビルカップ)              |               |           |
| 期 日                                   | 5月26日～6月1日    |           |
| 場 所                                   | 韓国(釜山)        |           |
| 派遣審判                                  | 小笠原久郎・仲田 稔    |           |
| ・ I H F コーチ・レフェリーシンポジウム               |               |           |
| 期 日                                   | 6月            |           |
| 場 所                                   | タイ(バンコク)      |           |
| 派遣役員                                  | 後藤 登          |           |
| ・ 第 1 回アジアユース(男子 U-19 女子 U-18)世界選手権予選 |               |           |
| 期 日                                   | 6月26日～7月2日    |           |
| 場 所                                   | タイ(バンコク)      |           |
| 派遣審判                                  | 永春文義・安田 寛     | AHF 指名    |
| ・ 第 1 5 回女子ジュニア世界選手権                  |               |           |
| 期 日                                   | 8月1日～14日      |           |
| 場 所                                   | チェコ(ブルノ)      |           |
| 派遣審判                                  | 家永昌樹・福島亮一     | IHF 指名    |

## 6) その他

平成 1 8 年度審判員の目標

- 審判に必要な身体能力の向上
- アドバンテージルールの遵守
- コート上での動きと位置取り

研究課題

- マンツーマン防御システムに対するレフェリーの位置取りについて
- パッシブプレーの予告合図のタイミングと判定のタイミング
- 許される行為と許されない行為の判定について(ルールブック第 8 条)

## 5. 競技力向上（強化）に関する事業

### 1) 国際大会・国際交流親善試合

チーム名	大会名	日程	場所	結果
女子 N	ギョナムアナズヴィルカップ	5/26-6/1	韓国・龍仁市	1;韓国 2;デンマーク 3;ウクライナ 4;日本 5;中国
男子 U-19	第 1 回アジア男子ユース選手権	6/26-7/2	タイ・バンコク	1;韓国 2;イラン 3;日本 4;パレーン 5;チャイニーズタイペイ 6;タイ 7;インド 8;マカオ
女子 U-18	第 1 回アジア女子ユース選手権	6/26-7/2	タイ・バンコク	1;韓国 2;日本 3;タイ 4;チャイニーズタイペイ 5;インド <b>世界選手権出場権獲得</b>
男子 N	第 10 回ヒロシマ国際	7/22-24	広島市	1;日本 2;韓国 3;エストニア 4;チャイニーズタイペイ
女子 U-20	第 15 回女子ジュニア世界選手権	7/26-8/16	チェコ・ブルノ	1;ロシア 2;ルーマニア 3;韓国 4;ハンガリー 5;デンマーク 6;セルビア 7;クロアチア 8;ポーランド 9;ブラジル 10;日本 11;スペイン 12;ウクライナ 13;中国 14;リトアニア 15;アングラ 16;チェコ 17;フランス 18;スウェーデン 19;チュニジア 20;アルゼンチン
女子 N	第 17 回女子世界選手権 (直前欧州遠征)	12/2-12 (11/19-12/1)	ロシア・サンクトペテルブルグ (デンマーク)	1;ロシア 2;ルーマニア 3;ハンガリー 4;デンマーク 5;オランダ 6;ドイツ 7;ブラジル 8;韓国 9;ルーマニア 10;ウクライナ 11;クロアチア 12;フランス 13;オーストリア 14;エストニア 15;マドニア 16;アングラ 17;中国 18;日本 19;ポーランド 20;アルゼンチン 21;コートジボワール 22;カメルーン 23;ウクライナ 24;オーストラリア
男子 N	第 12 回アジア選手権	2/8-22	タイ・バンコク	1;ウエイト 2;韓国 3;カタール 4;イラン 5;日本 6;パレーン 7;ヨルダン 8;中国 9;タイ

### 2) 海外強化合宿

チーム名	事業名	日程	場所	参加人数計(役員、選手)
女子 N	欧州遠征	8/5-18	デンマーク	23 名(役員 5 名、選手 18 名)
男子 U-16	韓国遠征(日韓共同未来プロジェクト外事業)	8/28-9/3	韓国・仁川	20 名(役員 4 名、選手 16 名)
女子 U-16	日韓交流大会(受入)	9/22-28	石川県・小松	22 名(役員 6 名、選手 16 名)
	日韓交流大会(派遣)	10/4-10	韓国・仁川	20 名(役員 4 名、選手 16 名)
女子 N	世界選手権事前欧州遠征	11/19-12/1	デンマーク	23 名(役員 7 名、選手 16 名)
男子 N	アジア選手権事前欧州遠征	1/17-30	スペイン	22 名(役員 4 名、選手 18 名)
女子 U-18	欧州遠征	2/25-3/6	ノルウェー	19 名(役員 3 名、選手 16 名)

男子 U-21	欧州遠征	2/19-3/3	フランス	22名(役員4名、選手18名)
---------	------	----------	------	-----------------

### 3) 国内強化合宿 (男女ナショナル)

チーム名	日程	場所・その他
男子ナショナル	6/2-7	埼玉県・大崎電気(役員4選手29)
	7/2-7	北海道・紋別市(役員3選手18)
	7/16-21	広島県・湧永製薬(役員3選手18)
	2/3-7	愛知県・トヨタ車体(役員3選手18)
女子ナショナル	5/9-11	石川県・北國銀行(役員2選手12)
	5/18-25	石川県・北國銀行(役員3選手18)
	8/2-4	石川県・北國銀行(役員2選手18)
	10/12-16	石川県・北國銀行(役員3選手21)
	11/10-18	大阪府・舞洲アリーナ(役員3選手16)

### 4) 国内強化合宿 (男女ジュニア)

チーム名	日程	場所・その他
男子 U - 2 3	6/17-19	東京都・日本大学(役員3選手21)
	11/20-23	愛知県・大同特殊鋼(役員3選手16)
	2/13-15	愛知県・大同特殊鋼(役員3選手16)
女子 U - 2 3	2/24-26	石川県・北國銀行(役員3選手18)
男子 U - 2 1	11/23-27	埼玉県・大崎電気(役員5選手23)
女子 U - 2 0	6/16-20	埼玉県・大崎電気(役員2選手17)
	7/9-13	埼玉県・大崎電気(役員2選手17)
男子 U - 1 9	4/23-27	茨城県・水海道市(役員2選手18)
	5/15-19	埼玉県・大崎電気 神奈川県・日体大(役員2選手16)
	6/18-23	埼玉県・大崎電気(役員4選手16)
女子 U - 1 8	4/28-5/1	熊本県・オムロン(役員3選手19)
	6/21-23	大阪府・大阪ガス(役員4選手16)
	12/16-20	大阪府・大体大(役員5選手20)
女子 U - 1 6	7/9-12	石川県・北國銀行(役員3選手17)
女子 U - 1 5, 1 6	2/17-20	石川県・北國銀行(役員4選手23)

### 5) ドクター・トレーナー帯同 (遠征・大会)

遠征・大会名	日程	場所	ドクター	トレーナー	チーム
ギョナムアナズヴィルカップ	5/26-6/1	韓国・龍仁市		倉田 忠司	女子 N
第1回アジア男子ユース選手権	6/26-7/2	タイ・バンコク	島田 信弘	尾中 祐二	男子 U-19
第1回アジア女子ユース選手権	6/26-7/2	タイ・バンコク	島田 信弘	木下 幸司	女子 U-18
第10回ヒロシマ国際大会	7/22-24	広島市		永井 正之	男子 N
第15回女子ジュニア世界選手権	7/30-8/16	チェコ・ブルノ	天門 永春	松田 亮子	女子 U-20
欧州遠征	8/5-18	デンマーク		倉田 忠司	女子 N
韓国遠征	8/28-9/3	韓国・ソウル		森 健一郎	男子 U-16
日韓交流(受入)	9/22-28	石川県・小松	北岡 克彦	木下 幸司	女子 U-16
日韓交流(派遣)	10/4-10	韓国・ソウル		木下 幸司	
欧州遠征	11/19-12/1	デンマーク		倉田 忠司	女子 N
第17回女子世界選手権	12/2-12	ロシア	佐久間 克彦	倉田 忠司	女子 N
欧州遠征	1/17-30	スペイン		永井 正之	男子 N
第12回アジア選手権	2/8-22	タイ・バンコク	沖本 信和	永井 正之	男子 N

欧州遠征	2/25-3/6	ノルウェー		木下 幸司	女子 U-18
欧州遠征	2/19-3/3	フランス		河野 公昭	男子 U-21

## 6) NTS (ナショナルトレーニングシステム)

- ・ブロックトレーニング(9ブロック)の実施  
小・中・高それぞれ男女15名+ 約1,000名
- ・セントラートレーニングの実施(JHL ウィンタートレーニングとして拡大実施)  
中・高男女ブロック推薦各50名をナショナルスタッフで書類審査を実施し各30名程度を中心に、U16、U19代表選手の選考を行った。

## 7) ジュニアオリンピックカップ大会

男子優勝：茨城県選抜 女子優勝：沖縄県選抜

- ・オリンピック有望選手の選考  
男子 糟谷 周穂(兵庫県・加古川市立浜の宮中学校)  
" 宮本 克哉(兵庫県・高砂市高砂中学校)  
" 木村 昌丈(茨城県・常総市立鬼怒中学校)

## 8) 女子ジュニア世界選手権第10位・女子ユース世界選手権出場権獲得・男子ユース第3位

- ・女子ジュニア世界選手権(チェコ)で、地元チェコを残り3秒で逆転し予選リーグ突破。BEST10に入った。ヨーロッパ勢2チームに勝った事は、高く評価できる。
- ・第1回アジア女子ユース選手権(タイ・バンコク)において、韓国に次いで2位となり、第1回ユース世界選手権の出場権を獲得した。
- ・第1回アジア男子ユース選手権(タイ・バンコク)において、この年齢層の大会では、久しぶりの表彰台で、第3位となった。

## 9) 女子代表世界選手権出場(ロシア)・男子代表アジア選手権第5位(世界選手権出場権逃す)

- ・第17回女子世界選手権(ロシア・サンクトペテルブルグ)に出場し、ベルト・パウワー監督の公式国際大会初陣であったが、優勝したロシアと同組の予選Aグループで1勝4敗5位となり、決勝ラウンドに進出できなかった。試合内容としては、監督手腕は十分評価できるものであり、ベルト・パウワー監督の北京オリンピックまでの継続が決まった。
- ・男子代表チームは、アジア選手権に出場したが、予選リーグ1勝2敗で3位となって、順位決定戦でパーレーンに勝利、第5位となったが世界選手権出場権獲得はならなかった。

## 10) 分析活動

第19回男子世界選手権及び第17回女子世界選手権大会におけるゲーム分析を行い、強化委員会資料として、3月に行われたコーチレフェリーシンポジウムの資料としてDVDを参加者に配布した。国立スポーツ科学センターとの共同によって分析活動が実現。予算についても、大きな支援をいただいた。

## 11) ドーピング活動

日本リーグプレーオフにおいて、ドーピングコントロール実施。検体数16。  
ドーピング規則書を策定した。

## 6. 機関誌発行に関する事業

1) 年10回の発行を行った。

1ヶ月発行部数 3,700部

(年3回登録中学校へ無料配布 約1,000部)

(年1回登録小学校へ無料配布 約170部)

2) 広告協賛 12社

3) インターネット情報との連携を図り記事とした。

4) 機関誌の内容の検討し、記事とした。

協会基本方針の掲載	理事会、評議員会、常務理事会、委員会報告
各連盟便り	強化部門情報の掲載(N T S、ナショナル合宿等)
国際情報の掲載	各大会結果報告
企画記事を増やした	がんばれ10万人会情報
技術分析記事	

## 7. 企画・広報に関する事業

1) 企画

中期スケジュールに基づく、ナショナル強化・普及・国際行事等の調整を行った。

日本リーグとの連携により、各種(GM、監督)研修会を行った。

活性化に向けた大会を実施した。

a. 東アジアクラブ選手権、オールスターゲーム、チャレンジリーグの実施

b. ドッジボールとのコラボレーション大会の実施

2) 広報

広報年間スケジュールに基づき活動を行った。

- ・ 定期記者発表(日本リーグ、日本リーグプレーオフ)
- ・ 臨時記者発表(女子新監督就任、スポンサー契約)
- ・ プレスリリース(各カテゴリー国際大会、国内大会他)
- ・ ナショナルチームの情報公開

インターネット発信(ホームページ)の充実を図った。

マスコミ(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ライター他)の取材調整を行った。

宮崎大輔選手のテレビ出演により大きな反響があった。

東京記者クラブとの打合せ連絡会を行い、意見交換を行った。

### 3) インターネット

日本協会ホームページの充実を図った。

- ・ ホームページのあり方・内容を検討し充実を図った。
  - ・ 情報のスピードかを推進した（大会結果速報のスピード化を図った）。
  - ・ ホームページ充実の体制作り（システム、人材、外注化）を検討した。
- コンテンツ作成の効率化を図った。  
HP 訪問数が継続的にアップしている。

## **8. 財務・会計に関する事業**

平成17年度は、財政状況を取り巻く環境が経済的にも社会的にも引き続き厳しい状況にあり、縮小均衡を前提に緊縮財政を組まなければならない状態であった。特に支出面において、効率の良い運営を推進する方針で臨んだ。

収入面では、マーケティング事業が一部努力目標としての計画であったことの影響もあったが、検定事業の見直しで増収が出来た。このことと、日本リーグからの繰入金収入で収入合計が予算に対し増収となった。

支出面では、北京オリンピック予選が日本で開催されることが確実視され、これの事業費を捻出する必要性が生じてきた。そこで、下半期に各事業部に対し、予算執行状況を示し、各事業の見直し、さらに効率的な実施を依頼した。その結果、一般会計で総事業費を抑制することが出来た。

次年度繰越金として例年になく黒字となったが、これは特定積立金を計上しなかったためであり、北京オリンピック予選に向けて楽観の出来る状況ではない。

渋谷税務署により税務調査が入り、収益事業と公益事業の考え方が示され、今後収益事業に対し法人税の負担が増えることが予想され、これに対する対策を検討する必要性が生まれている。

## **9. 日本リーグに関する事業**

1) 日本リーグ中期検討委員会をつくり、中期ビジョンの取り組みを開始した。

2) 「プロの運営」を目指し、始動した。

- ・ ゼネラルマネージャー(日本リーグ、各チーム)の設置に伴い、GM研修会を行い、育成を図った。
- ・ 開催権料をアップした。
- ・ オープニングゲームを集中開催として第30回大会のスタートとした。

- ・サイン会、グッズ、プログラムなど各大会の運営に積極的に取り組んだ。
  - ・マーケティング委員会を設置し、取り組みを開始した。
- 3) 観客動員を最優先に取り組み、成果を上げた。
    - ・レギュラーシーズンの観客大幅アップ
    - ・プレーオフの最多動員数を更新
  - 4) 日本リーグ 30 周年感謝の集いを開催した。
  - 5) リーグ活性化事業に取り組んだ
    - オールスターゲーム(ナショナル壮行会)を開催した(大阪)。
    - チャレンジリーグを開催した。
    - 第 2 回東アジアクラブ選手権(中国)に参加した。
    - 日本協会強化事業と連携した活動を行った(NTS など)。
  - 6) 日本リーグ女子に三重バイオレットアイリスの新規参入が決定した。
  - 7) 第 31 回大会より男子リーグの一部統合を決定した。
  - 8) マスコミ対策に取り組んだ。
  - 9) 日本トップリーク連携機構の活動が本格化した。

## 10. 総務に関する事業

- 1) 定例の諸会議の開催について、開催場所の選択や人員・規模等を勘案し会議費や日程の効率的運営の推進を図った。
  - (1)評議員会 6月11日(東京) 2月4日(東京)
  - (2)理事会 6月18日(東京) 11月12日(東京) 2月18日(東京)
  - (3)常務理事会 4月2日(東京) 5月14日(東京) 6月18日(東京) 7月24日(広島)  
9月10日(東京) 10月23日(岡山) 11月12日(東京) 12月10日(東京)  
1月21日(東京) 2月18日(東京) 3月11日(東京)
  - (4)全国理事長会議  
10月22日、岡山県岡山市にて岡山国体開始式前日に開催。日本協会表彰の後、プロジェクト 21、日本を取り巻くスポーツ界の現状、普及の現状と課題、強化の現状と課題、春の全国中学生大会、平成 18 年度からの登録料の改定、10 万人会、日本リーグなどについて日本協会役員より説明があった。活発な質疑応答後、懇親会を開催した。
  - (5)事務取扱責任者会議 2月19日(東京)
    - ・平成 18 年度の登録業務を主に、日本協会からの説明が行われた。
- 2) 協会要覧の発行
  - ・平成 17 年度版日本協会要覧(規程集)を発行した。
- 3) 環境問題
  - ・スポーツと環境保全問題について、大会において会場にポスターやバナーの掲示をし、

環境問題の啓蒙に努めた。ゴミ分別収集の徹底、紙コップのリユースなどを行った。  
・裏紙利用やメール多用により、事務局内の紙節減に努めた。

4) 事務局内のインフラ整備を行った。つり下げ式スクリーンを導入し、事務局内で小会議を行う際のプロジェクター撮影を可能にした。

5) 個人情報保護法に対応するため、事務局員 PC の個人情報所持状況を調査し、PC のセキュリティ強化を図った。

### 11. 「がんばれハンドボール10万人会」サポート会に関する事業

1) 平成17年度サポート会員総数(平成18年3月31日現在)

特別会員	9名
グランド会員	222名
ファミリー会員	150名
ジュニア会員	15名
都道府県ファミリー会員	350名
都道府県グループ会員	2,551名
総数	3,297名

2) 推進活動

- (1) 都道府県ファミリー会員・グループ会員入会の促進
- (2) 大会会場における会員の優先席設定

3) 事務局

- (1) 毎月の入会・更新作業
- (2) 打合会の開催・事務処理

### 12. マーケティングに関する事業

1) アシックス社との協賛契約

アシックス社とオフィシャルスポンサー契約を結ぶ。ナショナルチームへのユニフォーム、シューズ等の提供。

2) エモック社との協賛契約

ナショナル(アンダーを含む)強化活動の遠征旅行代理業務契約を結ぶ。

3) トヨタ自動車とのユニフォーム広告契約

ナショナル女子チームの2005女子世界選手権大会(12月ロシア)参加にあたり、トヨタ

自動車からユニフォーム広告協賛を受けた。

- 4) 各種スポンサーシップに対する資料のまとめをおこなった。
- 5) ハンドボールの魅力を効果的に伝える携帯サイトからアクセスできることの対応を広報部門と検討(継続中)。
- 6) プレスキッドの作成を通じ、ハンドボールを幅広く告知すると同時にスポンサー企業を獲得する為のセールスキッドの作成。
- 7) 女子世界大会(05, 12月ロシア)において、マーケティング調査をおこなった。  
またトヨタ自動車への大会報告書(DVD)を提出した。
- 8) アシックス社、モルテン、全日空他協賛企業等について依頼と御礼をかねて企業訪問を実施した。
- 9) JOCオフィシャルパートナーシップとの関連で選手の肖像権等について検討(継続)。
- 10) 日本協会主催大会開催に伴い権料の見直しについては継続中。
- 11) 講習会(資格も含め)の展望、展開について指導委員会と打ち合わせ、今後一層充実していくこと申し合わせ(継続)。
- 12) 日本ハンドボール協会としての商品化を踏まえてのオフィシャルマーク(ナショナルチームにも使用を要請予定)の作成、及び既存のマーク(2種)との整理整合の提案を継続中。